

麒麟がくる
戦国を駆け抜けた
4人の

細川藤孝 HosokawaFujitaka

細川忠興 HosokawaTadaoki

城

玉 (ガラシヤ) Tama(gracia)

明智光秀 AkechiMitsuhide

●千田嘉博氏が語る
「勝龍寺城！ココがすごい」

●磯田道史氏が語る
「細川藤孝・明智光秀と長岡京市」

勝龍寺城！ ココがすごい

日本の城郭史のなかで卓越した城だった、勝龍寺城。大河ドラマ『麒麟がくる』のゆかりの地として脚光を浴びるなか、改めてその魅力や価値に迫っていたがきた。

(令和元年11月2日長岡京市内にて)



千田嘉博氏

1963年愛知県生まれ。城郭考古学者・博士(文学)。国立歴史民俗博物館館長などを歴任。現在、奈良大学副学長。中世から城郭を歩きはじめる。日本と世界の城を研究。文化財石垣保存技術協議会評議員、特別史跡勝龍寺城保存活用委員会など。日本各地の城郭の調査と整備の委員を務めている。城郭の考古学的研究を軸に発信し、その普及に力を尽くしたところにより、2015年に第2回城郭博覧会を受賞。2016年には、NHK「大河ドラマ『真田丸』の真田丸城郭考証を務めた。主な著書に『織豊系城郭の形成』(東京大学出版会)、『戦国期の城を歩く』(ちくま学芸文庫)、『信長の城』(朝日新聞)など。監修書に『日本の城郭めぐり』(ナツノシヅカ)などがある。

細川家と明智家にゆかりの深い 勝龍寺城。

元亀2年(1571)に、織田信長の命により細川藤孝(幽菴)が大規模な改修工事を行ったのが、現在の勝龍寺城の原型です。信長が、非常に広い範囲に勝龍寺城の普請の手伝いをするようにと指示した古文書が残っていることから、信長の味方をした藤孝の居城・勝龍寺城というのは、織田政権にとって重要な拠点として、非常に大きな意味を持っていたと思います。そして、大河ドラマに必ず出てくるであろうと思いますが、天正6年(1578)に藤孝の嫡男の忠興と光秀の娘のお玉・ガラジャさんが、勝龍寺城で祝言をあげる。それによって、ますます光秀と藤孝、あるいは細川家と明智家が結ばれていくことになっていきます。

中世から近世への移り変わりを実感 できる四角いお城・勝龍寺城。

城の全体像を復元してみますと、本丸を中心として、「石垣」や「櫓形虎口(※方形空門を囲んで築かれた城への出入口)」などがあった点も注目すべきですが、中心部が基本的な四角い形をしています。それから、周辺の沼田丸とか沼田屋敷、松井屋敷。具体的な屋敷がどうだったかはつきりわかりませんが、いずれにしても四角い形で、おそろしく溝もしくは堀を巡らしていても「館」が周囲に並び立っていた。これは、室町時代以来の武家屋敷の伝統を踏まえている。そういう歴史性があったと思います。まさにこの勝龍寺城というのは、中世的なお城が近代的なお城のように変わっていったのかということが示す、全国的に見ても極めて重要なお城です。そして、その中心部、あるいはその外側の堀や土塁の様子というのを、発掘調査のときだけでなく、現在、普通に行つて見ることができる、体感することができる、特別なお城ですね。

当時最先端の段石垣を取り入れていた 勝龍寺城。

1991年の発掘調査で、戦国期における極めて貴重な石垣が大規模に見つかっています。そこでは、多くの自然石を積み上げています。実は、しばしばですね、信長が初めて石垣をお城に導入したと、本やインターネットの情報なんかには確信に満ちて書いてあることがあるんですけども、間違っていますね。信長以前にも、石垣の城というのは畿内を中心に成立していた、信長はその技術を自分の城にちよつと遅れて導入していったというのが真実だと思います。さらに、勝龍寺城では、当時の最先端の「段石垣」を用いたお城です。まだまだ一気に高い石垣を作ることができる時期ではなく、やむを得ず、3~4メートルの石垣を作つて、そこでセツトパツツして次の段を作つて、またセツトパツツして上の段を作っていく。そういった段々の石垣を取り入れていることも勝龍寺城の特徴です。

石垣や瓦に見られる 光秀の城と藤孝の城の共通点。

光秀が作ったお城の一つ・福知山城。この石垣は、「転用石」をたくさん用いているということでもよく知られておりますが、勝龍寺城からもたくさん「転用石」が見つかっています。これも時代と言いまじょうか、石の形を選んでなかったんですね。ですから、お地蔵さんであれ、墓石であれ、積める石であれば積んじゃうということです。それから、最近のお城研究では、重ね積みが非常に面白い、石垣を考えるポイントになると言われています。勝龍寺城は、光秀の福知山城と同じ重ね積みを採用しており、藤孝と光秀とは共通した技術体系を持っていたことが見えてまいります。さらに、勝龍寺城からはたくさん「瓦」が見つかっています。当時、まだ多くの人が板葺きの屋根を使っていたので、瓦を使うことが非常に先進的です。そういったなかで、光秀の坂本城の軒丸瓦と勝龍寺城の軒丸瓦が、過去の調査から、同じ型で模様の浮き彫りにした瓦であるということがわかっています。いずれも京都系の技術で作られた瓦であり、ここにも光秀と藤孝が、非常に近い関係というか、特別な関係ということが見えてくるように思います。



【上】勝龍寺城北門虎口の石垣。およそ半分から下の部分は、約400年前の藤孝が築いた石垣そのものが残っています。
【下】発掘調査で出土した軒丸瓦。三ツ巴の文様は、光秀が築いた坂本城(滋賀県大津市)と同じ型で作られたもの。勝龍寺城公館管理棟2階展示室で実物を展示しています。

光秀・藤孝と 長岡京市

1970年岡山県生まれ。慶應義塾大学大学院修士。京大文化史学専攻。京都府立総合文化センター学芸員。NHK・BSフリアの歴史番組「英雄たちの選択」のキースター。著書「まふの家」(新潮新書、新潮ドキュメント)著、2010年。映画「近世大名家臣の社会構造」(東洋大学出版局)で博士(文学)。「天災から日本史を読みなおす」(中公新書)で博士(文学)で博士(文学)。「戦国」の再考(人文文庫)の「戦国編」十三巻が2016年「歴」の巻、刊行でござい！として映画化された。2018年は明治150年について「開国」にご一緒。大河ドラマ『西郷どん』の時代考証をつとめる。近著は万葉学者・中西進先生との共著「長岡京と生きる日本人」(講談社)。



磯田道史氏

明智光秀とともに戦国を生き抜いた盟友・細川藤孝。二人の關係に注目しながら、本能寺の変から山崎合戦へつづく、長岡京市ゆかりの歴史を語っていただきました。

(令和元年12月8日長岡京市内にて)

光秀・藤孝と非常にゆかりの深い 長岡京市。

一つは細川(長岡)藤孝が、長岡京市の勝龍寺城を中心として、桂川の西岸あたりを領有したということもあますし、明智光秀が細川家に仕えていたということもあります。そして、光秀の誠亡は山崎の合戦でありましたので、秀吉と最後の戦いをするときに、

勝龍寺城に一時光秀が陣をおいたゆかりの地でもあります。

信長に仕えるまでの光秀は、想像を逞くすれば、恐らく越前・朝倉家との連絡、もしくは情報収集のような形で、非常に深く幕府や長岡・細川家とのつながりを持ち、連絡を取りながら、情報を送ったり、交渉のときには取次ぎをしたり、そういった要員をしていたのではないかなと思います。

参加しよう！

Event イベント情報。

1



ようこそ長岡京市！まちなか博イベント！?勝龍寺城会場

ミニ企画展『勝龍寺城の茶道具—文化交流の場—』



勝龍寺城城主・藤川藤孝は、当代随一の文化人。また、藤孝の義勇、忠実な後継者、千利休の高弟「利休七哲」の一人として名を馳せました。

昭和63年、勝龍寺城公園の整備にかかる発掘調査によって、さまざまな遺構・遺物が出土し、そのなかには茶道具も確認されています。勝龍寺城でもたびたび茶の湯が催され、戦闘における防御施設であったと同時に、文化的な活動の場であったことがうかがえます。今回は、これら茶の湯に関わる出土品を紹介しています。

- 期間 令和2年4月5日(日)まで
- 開館日 午前9時から午後5時(4月以降は午後6時まで)
- 場所 勝龍寺城公園 管理棟 2F 展示室内
(長岡京市勝龍寺13-1 / JR京都線長岡京駅から南へ徒歩約10分)
※お車でのご来場の際は、JR長岡京駅周辺駐車場をご利用ください。
- 問い合わせ 長岡京市教育委員会生涯学習課 ☎075-954-3557

無料
観覧自由

2



ようこそ長岡京市！まちなか博イベント！?図書館会場

ミニ企画展『恵解山古墳と山崎合戦』



恵解山古墳から出土した戦国時代の土師器皿、白磁皿、火鋸状の埴輪

天正10年6月、本能寺で織田信長を討った明智光秀は、その後、備中高松城攻めから急ぎ戻った羽柴秀吉と戦うこととなります。以前は「天王山の戦い」と呼ばれていましたが、実際の合戦が行われたのは大崎町から長岡京市の勝龍寺城付近一帯であったため、「山崎合戦」、あるいは「山崎の戦い」と呼ばれています。恵解山古墳は、以前から明智光秀の本陣跡とする説がありました。史跡整備に伴う発掘調査で、戦国時代の遺物や曲輪状の改変痕などが見つかっています。その調査成果の一部をご紹介します。

- 期間 令和2年3月29日(日)まで※図書館休館日は除きます
午前10時～午後7時(土曜・日曜・祝日は午後5時まで)
- 場所 長岡京市立図書館1階歴史資料展示コーナー
- 問い合わせ 長岡京市教育委員会生涯学習課 ☎075-954-3557

無料
観覧自由

3



長岡京市特別歴史講演会

『勝龍寺城—石垣・瓦・天主の出現—』



勝龍寺城はその後の城郭の標準となる当時最先端の城。中井先生には、発掘調査成果をもとに、城郭研究の視点でご講演いただきます。

- 日時 令和2年3月1日(日) 午後1時30分～3時45分
- 場所 長岡京市立中央公民館3階市民ホール
- 講師 滋賀県立大学教授 中井均さん
- 主催 NPO法人長岡京市ふるさとガイドの会
- 共催 長岡京市教育委員会
- 後援 長岡京市観光協会
- 問い合わせ NPO法人長岡京市ふるさとガイドの会の中山さん ☎050-1082-2636
長岡京市教育委員会生涯学習課 ☎075-954-3557

申込不要
先着 200名
資料代 500円

『Moshi-mosu II』 vol.4

発行：長岡京市教育委員会生涯学習課 京都府長岡京市天神4丁目1番1号/令和2(2020)年1月